

## 『留学僧育英会』の方向性について

善光寺住職 黒田 博志

留学僧育英会の事業は、法灯の国際化をめざした当山二世大圓武志大和尚の発願に始まります。仏教興隆、ひいては世界平和に貢献したいという理念から、設立以来実に二十一年ひとときも滞ることなく今日まで続いて参りました。

「毎食ごと、一口分だけ減らしてご協力下さい」との呼びかけに応じて頂いた檀信徒と、ご賛同下さる多くの方々の尊いご浄財により支えられ成り立って参りました。

これまで、国内外に派遣され受け入れられた留学僧も既に二十一ヶ国、一一二名にものぼっております。

国境を越え、宗教・宗派を問わないこの人材育成のため、育英事業は横浜善光寺の支柱となり、いずれの時代にも限りなく継承され継続さ

れることこそが、初代理事長大圓武志大和尚の遺志と承知致しております。

しかし、昨年末理事長の突然の遷化は留学僧派遣環境が引き継がれないままの事態において発生し、まこと事情が一変してしまいました。

以来、事業環境の整備を急いでおりましたが、本年の留学僧募集には時間的に間に合わず、関係者協議の上、十全を期す意味からいまま少し準備が必要と判断致しました。

この事情は育英会理事、役員各位のご理解ご諒解のもと、三年を超えぬ時期には是非とも実現出来ますよう努力するとともに、仏さまに祈念し縋って参ります。

育英事業を推進するためには、資金的にもいまま少し余裕が必要です。決して一銭一草も無駄にはできません。どうぞ事情慮り、今後とも続けてご協力ご浄財賜りますよう謹んでお願い申し上げます、とりあえず育英会の状況報告と方向確認を申し上げます。